

## 生活道の安全対策は急務

子ども・高齢者に優しい町づくりの実現を望む  
答弁Ⅱ危険箇所の改修・安全対策に取り組む



井上 正臣 議員

町内の菊楽、新町周辺を区画街路4号として、改良工事が進められているが、国道33号への連絡道の整備も重要である。

また、北山電停周辺においても、電車の乗り降りや歩行者、あるいは自転車通学の学生にとっては、危険と感じる場所である。

また、山間部の下八川打木地区や、神谷北部集落の成山、中追地域の町道は蛇行し、幅員も狭く危険な箇所が多い。住民の生活に欠かせない道路の整備は急務である。早急な対策を切望する。

### 水田土木課長

町内において、新町、菊楽地区の道路改良事業や北山電停周辺の「北山歩道事業」などに取り組んでおり、早期完成を目指したい。

成山、中追地区の道路は幅員の狭い箇所が多くありガードレールの設置も考えなければならぬ場所もあるため安全対策に取り組むたい。また、吾北の打木地区からの改良要望について



北山歩道改良予定

は、年次計画を立てて事業を進めているところである。

いずれも、住民からの要望もあり、歩行者や自転車走行、また自動車などの安

## バス路線 厳しい状況を予測 利用者激減 平均乗車密度1.6人

### 井上議員

国道194号沿いの吾北、本川地域においては人口の減少とともに高齢化率も年々上昇傾向がみられる。

この状況では、バス運行会社の経営努力だけでは持続可能なバスの運行は極めて厳しい環境といえる。

一方では、高齢化による免許証の自主返納者の移動手段の確保としてもバス路

全対策の必要性を感じる場所であることから、早期改善を目指し、財源面もみながら積極的に取り組んでいく。

線の確保は重要である。

残すべき、いの町地域公共交通のバス路線についていかに取り組むのか。

### 池田町長

現在、いの町は人口の減少傾向にあり、それに伴い、公共交通であるバスの乗車数は減少している。

その対策として、持続可能な公共交通体系の確立を目指し、10年計画として

「いの町地域公共交通総合連携計画」を作成し、ダイヤ改正、運行変更に関すること、本川地区では、過疎地有償運送に関することなども議論している。

免許返納者の移動手段の確保は重要であるが、現在

の利用状況を考えると財源にも限界があり、公共交通の維持に関しては厳しい状況が予測される。

### 井上議員

現在、公共交通維持として多額の財源で支援しているが、すべての路線でバスの乗車率が2人以下である。

財源の視点から、バス路線の確保は大丈夫なのか。

### 筒井総合政策課長

バス路線の維持は、多額の費用がかかっており、国庫補助金や運賃など利用料収入で賄えない現状ではあるが、住民に必要な公共交通の確保に全力で取り組んでいく。

### 平成29年度 輸送実績

バス路線	平均乗車密度
伊野～土居	1.3人
伊野～長沢	1.9人
伊野～狩山口	1.3人
伊野～柳瀬	0.2人

免許証返納者数
平成28年 54人
平成29年 87人

### 公共交通2社の補助金(千円)

平成	北部交通	嶺北観光
27年	44,483	4,967
28年	49,895	4,362
29年	74,398	4,499